

Monthly Report

2020東京オリンピック大会事前合宿決定 誘致活動の成果が結実



ベラルーシからのベラルーシ共和国体操協会からの親書を手にする山田白石市長（左から2人目）と滝口柴田町長（右）

2020年東京オリンピックに向けたベラルーシ共和国新体操ナショナルチーム事前合宿誘致に関する記者会見が2月2日（木）、仙台大学LC棟を会場に開催されました。

会見では「白石市・柴田町・仙台大学 東京オリ・パラ事前合宿招致推進協議会」の会長である朴澤泰治理事長・学事顧問から、協議会の打診に対するベラルーシ共和国新体操ナショナルチームからの回答書に基づき、事前強化合宿を白石市「ホワイトキューブ」をメインとして、また、本学のスポーツ科学諸施設をサブとして行われることが決定したと報告されました。

今回の決定は平成28年3月に協議会が発足して以降、新体操をはじめとするオリンピック・パラリンピックの数種目の事前合宿誘致の企画を白石市および柴田町とともに積極的に展開してきたなかでの初めての決定となります。

会見で朴澤泰治理事長・学事顧問は「ベラルーシ共和国の新体操チームが事前合宿地としてこの地を選んでくれた。素晴らしい成績につながるよう協力していきたい。」と話しました。

2020東京オリンピック大会・パラリンピック大会の事前合宿誘致は地方創生という国家事業のなかでも中核を担うものであり、今後、国からのホストタウン認定を経て、白石市および柴田町が展開する各種の地方振興施策に、仙台大学は社会貢献の一環として加担するとともに、世界のトップアスリートと接する場面を通じた専攻領域のスポーツ科学を実践するという本学の学生にとって絶好の機会を得たこととなります。

〈目次〉

2020東京オリンピック大会 ベラルーシ共和国新体操チーム の事前合宿が決定	1
学都仙台コンソーシアム 10周年記念式典	2
第12回仙台大学 健康福祉研究会開催	3
阿部学長らが 横浜DeNA熊原投手を激励	4
子ども運動教育学科 ～スポーツが好き・子どもが好き～	5
国際交流報告 ハワイ大学ATビギナー研修	6
「中高大連携会議」を開催	7

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室
 直通 0224 - 55 - 1802
 Email kouhou@sendai-u.ac.jp

「学都仙台コンソーシアム」設立10周年記念式典が開催

～学都仙台コンソーシアムの今日までそして明日から～

2月24日（金）仙台国際ホテルにおいて「学都仙台コンソーシアム」設立10周年記念式典が開催され、「大学コンソーシアム石川」の会長による基調講演や、本学の阿部芳吉学長を含むパネリスト5名のディスカッションなど、これまでの活動を振り返るとともに 今後の学都仙台コンソーシアムの展望について、会場に集まった約120名の関係者により熱心な意見交換がなされました。

学都仙台コンソーシアムは、仙台学長会議を母体として2006年9月に設立され、大学等の高等教育機関と市民・企業・行政が互恵的な関係を結び、ともに高め合い、総合に発展の機会を創造していく「知が連携する学都仙台」をめざすこと及び、同高等教育機関の知的資源が生かされる都市の個性を内外にアピールし、学都の持続的発展を可能とするさらなる集積を呼ぶ「知の創造都市仙台」をめざすことを理念としています。

現在、宮城県内にある大学や専門学校21校、仙台観光国際協会、仙台商工会議所、東北多文化アカデミー、みやぎ工業会、理化学研究所、宮城県、仙台市といった公的機関など7団体を合わせると全部で28もの団体が加盟しています。主な活動としては、大学間における単位互換の推進、サテライトキャンパスの運営に関する「戦略的学都連携支援事業」、地域の復興に貢献できる人材育成の養成機関としての復興大学を開設する「復興大学学事業実施」など多岐にわたり、人材育成・開かれた高等教育に努めて参りました。

最初に文部科学省高等教育局大学振興課長である角田喜彦氏より「このたびは学都仙台コンソーシアム10周年記念、誠におめでとうございます。仙台市出身の自分が、東日本大震災で大変な被害を受けた故郷を目のあたりにした時は、胸をえぐられるような気持ちでした。しかしながら苦難の中、宮城県の大学・教育機関が連携・集結し立派に復興をとげていることを大変心強く感じています。地方創生が叫ばれる中で、行政も人材育

成・高等教育のさらなる充実に力を尽くして参ります」と挨拶がありました。

金沢大学学長で「大学コンソーシアム石川」の会長でもある山崎光悦氏による石川県におけるコンソーシアムの事例紹介がなされた後、仙台大学・阿部芳吉学長、石巻専修大学・坂田隆教授、みやぎ工業会・八島和彦理事、仙台市文化観光局理事・白川由利枝氏、東京学芸大学大学院生・及川いずみ氏の5名が参加して「学都仙台コンソーシアムの今日までそして明日から」をテーマにパネルディスカッションへと移りました。

阿部芳吉学長は、これからの展望として簡潔に4つの事柄を述べました。

- ①東日本大震災から6年がたった今、震災後はそのような人材が必要とされ育成しようとしているのか？ 学都仙台コンソーシアムで確認し、対応していくこと。
- ②宮城県が支援してくれる3000万円はありがたい。市民の税金として大切にに使わせていただくこと。
- ③企業にもバックアップしていただくのであれば、何をしていきたいのか？明確なプランを構築すること。
- ④マスコミ関係者に学都仙台コンソーシアムの活動を理解し、世間一般に広めていただくために、もっとPRが必要であること。

また阿部学長は具体的な取り組みとして、仙台大学が実施している地域貢献の実例を紹介されました。「柴田町には小学校・中学校が9校あり、仙台大学の学生達を全ての学校にボランティア要員として派遣しています。

例えば柴田町のみならず広範囲に本学の学生をおくり、2020東京オリンピック・パラリンピックを目指す子ども達の育成をサポートするなど、各大学の特性を活かしアイデアを持ち寄ってそれぞれの地域へ貢献できるよう、学都仙台コンソーシアムの11年目に向けて、これまでの資料の分析を行うとともに対策を練ることが大切です」と話されました。

これからも国公立大学・私学団体や文部科学省などが協力し合い、開かれた情報公開を推進しながら、学都仙台コンソーシアムを軸になお一層、大学間の連携強化をはかることを確認しあう場となりました。



パネルディスカッションの様子

第12回仙台大学健康福祉研究会開催

2月26日（日）13時～15時30分、第12回仙台大学・健康福祉研究会が仙台ガーデンパレスで開催されました。健康福祉研究会は健康・福祉に関連した話題や取り組みを紹介し、在校生や卒業生、教員や教育研究者、福祉領域の職員と交流を深める会として第12回を迎え、今回は「介護福祉教育と福祉レクリエーション」というテーマで催し、明成高校、介護施設職員、卒業生、在學生など約250名が参加しました。

特別講演ではマーレー寛子氏（滋賀県 社会福祉法人小羊会 高齢者部門統括施設長：公益財団法人日本レクリエーション協会理事）より、「介護福祉におけるレクリエーションの位置づけ」と題して、海外での活動を含めたこれまでの取り組みや、高齢者福祉の中でのレクリエーションの活動について、動画を交え、『レクリエーションが福祉を救う』『楽しむことが心の健康につながる』と力強いご講演を頂きました。本学からは大山さく子健康福祉学科長、後藤満枝准教授が介護福祉養成の現状と取り組み、さらに志願者確保に向けた広報活動を紹介し、介護の魅力づくりや仙台大学から発信する『介護福祉士の新しいカタチ』を提案しました。最後に、小山亮二氏（公益財団法人日本レクリエーション協会 プロデューサー、H12年健康福祉学科卒）より実技セミナー「レクリエーションでコミュニケーション力アップ」と題し、様々な対人関係スキルや認知症予防に有効なレクリエーションについて実技を交えて紹介があり、参加者も笑いの中、楽しく過ごし会場も和やかな雰囲気でした。

その後、同会場で懇親会が催され、阿部芳吉学長からの挨拶、1年生からダンスの披露、健康福祉学科 第1期生～18期生の卒業生から挨拶・近況報告を含め、参加者が楽しく懇談し、交流を深めました。

【報告：健康福祉学科 助教 福田 伸雄】



マーレー寛子氏による特別講演



懇親会終了後の記念写真

仲野副学長が大阪の中学生に「オリンピック・パラリンピック教室」

2020東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、スポーツ庁のオリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業が全国各地で展開されています。その1つに「オリンピック・パラリンピック教育」があります。これは、次世代の若者を対象に、オリ・パラそのものや共生社会などへの正しい理解を促進しようとする試みです。



中学生に向けて講演する仲野副学長

事業展開を請け負う1つに㈱ジュピターテレコム

(J:COM)、そこからの依頼を受け、昨年12月と今年の1月の二度にわたり、大阪の中学生（1年生対象）に対しオリパラ教育特別講義「オリンピック・パラリンピックに続くスペシャルオリンピックスを学ぼう！」というテーマでお話をさせていただきました。その場面は、写真の通り撮影が入り、どちらも地元のケーブルテレビで紹介されました。

1回目は八尾市の中学校で138名に、2回目は高槻市の中学校で197名にスポーツの価値や効果の再認識を通じ、国際的な視野を持って世界の平和に向けて貢献できる人材育成のきっかけを与えると共に、オリパラへの興味関心の醸成をねらいとしてお話させていただきました。1つの授業として実施されたので、時間は50分間でした。大阪の中学生の話に対する食いつきの強さと目の輝きに改めて感動しながら、与えられた時間を最大限使って熱く話をしました。後半は中学生たちに、「特に印象に残ったこと・大事だと思ったこと」、さらに「なぜ印象に残った理由・大事だと思った理由」について男女1名を指名して感想を含めて全員の前で発表してもらいましたが、素晴らしい発表をしてくれました。特に2回目の中学校は体育・スポーツに力を入れているモデル校だそうで、先生方も実に熱心に受講されました。女性の校長先生と終了後お話をさせていただいたところ、何と私が卒業した大学の1つ年上の先輩だったことという不思議な縁もありました。

私が生まれた大阪での特別講義は新鮮で学ぶべきことも多々あり、貴重な機会を与えていただいたことに感謝しています。

【報告：副学長・体育学科長 教授 仲野隆士】

今季交流戦で地元ファンに勇姿を!! ～沖縄訪問の阿部学長 熊原投手を激励～

阿部芳吉学長は2月15日～17日、沖縄県宜野湾市と広島県呉市を訪問し、それぞれ春季キャンプ中のプロ野球横浜DeNA・熊原健人投手（平成27年度卒）と、本学硬式野球部員を激励しました。

阿部学長の両キャンプ地訪問は熊原投手が本学から初めてプロ野球界入りした昨年に続き2度目。今回も八巻芳信硬式野球部OB会長と高橋義夫硬式野球部長が同行しました。一行が最初の訪問地・沖縄に入ったのは午後3時過ぎのため、宜野湾市でキャンプ中の熊原投手は既にその日の練習を終えており、再会は同投手が宿泊するホテルで実現しました。

熊原投手は面談の中で、阿部学長の激励訪問に謝意を表した後、①昨年11～12月に台湾で開かれた「2016アジアウインターベースボール（AWB）」にNPB（日本野球機構）イースタン選抜の一員として参加したものの、現地で肺炎のため3日間入院し、約10日間の滞在で帰国せざるを得なくなった②入院治療で体重が7kg減ってしまった—などのアクシデントに見舞われたことを披露。「今は体重も5kgほど回復し、最も動きやすくなっています」「投球フォームを一部改良した結果、計測数値には表れないものの、球速アップを実感しています」と話し、キャンプ初参加の昨年とは違って「練習メニューや内容をよく理解して取り組んでいます」と余裕のある表情を見せていました。

これに対して阿部学長らは「今季は1勝でも多く1軍で実績を残し、6月に仙台で行われるセ・パ交流戦の対東北楽天との試合で勇姿を披露してほしい」「プロを目指す後輩たちの勇気づけとなる活躍を」などと熊原投手の奮闘を促しました。また、プロ2年目の熊原投手について阿部学長は「ひと回り遅くなった」評価しました。



熊原健人投手を激励する阿部芳吉学長（沖縄県宜野湾市内のホテル）

【報告：硬式野球部 部長 教授 高橋義夫】

秋・春連覇で大学創立50周年を飾ろう

沖縄に続く訪問キャンプ地の広島県呉市には2月16日夜に入りました。同市二河球場では本学硬式野球部が同13日から2週間の日程で春季キャンプを行っており、森本吉謙監督と坪井俊樹、田上紳二郎両コーチのほか、入学予定の新人10人を含む約50人が参加して、4月上旬に開幕する仙台六大学野球春季リーグでの優勝目指して調整に励んでいます。

阿部学長は16日夜、東京から激励に駆け付けた硬式野球部OBで(株)こども体育研究所の遠藤活美社長らとともに、森本監督、坪井、田上両コーチの労をねぎらい、翌17日には降雨のため変更した屋内練習場を訪れて全部員を励ました後、ブルペンにも足を運んで投手陣の一球一球に熱い視線を向けました。

部員への激励の中で阿部学長は、沖縄で熊原投手から聞いたWBC（ワールド・ベースボール・クラシック）日本代表の主砲・筒香嘉智外野手（横浜DeNA）の「礼儀正しく、偉ぶらず、努力を惜しまない」姿を紹介。野球界のスタープレイヤーを手本に腕を磨き、昨年秋に続いて今春季リーグを制覇し、2年ぶりの全本選手権出場を果たして本学創立50周年を飾ってほしいとエールを送りました。



屋内練習場のブルペンで投球練習を熱心に見る阿部学長（広島県呉市内）

【報告：硬式野球部 部長 教授 高橋義夫】

「子ども運動教育学科」～スポーツが好き・子どもが大好き～

ふきのとうも顔を出し始め、春の足音が少しずつ大きく聞こえるようになりました。新学科「子ども運動教育学科」の誕生まであとわずか。新入生を迎える準備も着実に進んでいます。新学科の4年間の流れを大きく捉えると、1年次は「子ども運動教育の基礎を修得すること」2年次は「専門教育を学び深めること」3年次は「実習を通して実践力を養うこと」4年次は「4年間の学びの集大成をすること」となります。スポーツが好き・子どもが大好きな学生が、目を輝かせながらキャンパスで学習している姿が目に見えます。



プレイルームで遊ぶ子ども達

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の「教育及び保育の基本」や「幼稚園教育要領」の「幼稚園教育の基本」では、「・・・自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であることを考慮して、遊びを通しての指導を中心として・・・」と遊びの重要性が指摘され、同様に「保育所保育指針」の「第2章 子どもの発達」でも、「・・・子どもと生活や遊びを共にする中で、一人一人の子どもの心身の状態を把握しながら、その発達の援助を行うことが必要である。」と述べられています。

12月中旬の肌寒い日、授業の一環として男女10名ほどの学生と共に町内の小学校の学習参観を実施しました。業間休みになると多くの子ども達が昇降口から外に飛び出して行きました。ふと校庭に目をやると、スーツ姿の学生が、子ども達とサッカーや野球、ドッジボール、鬼ごっこなどをしていて、あちらこちらから歓声が聞こえてきます。参観後の学生の振り返りレポートには「休み時間自分も一緒になって遊びました。子ども達は元気が良くついていくのがやっとなりました。」「子ども達は授業も遊びも何をするのも全力です。」と遊びを通して見つけた発見を書いていました。自発的に子ども達と触れあう仙台大生の姿に、新学科の学生がオーバーラップした1日でした。

【子ども運動教育学科 針生 弘】

新学科入試で同窓会沖縄支部に協力要請



仙台大学同窓会沖縄支部の会員と記念撮影する阿部学長ら（宜野湾市内）

沖縄訪問した阿部学長は2月15日、熊原投手を激励した後、宜野湾市内で本学同窓会沖縄支部の有志との懇親会に臨み、今年4月に6番目の学科として開設される「子ども運動教育学科」の学生募集について協力を求めました。

懇親会には、真玉橋克彦・同窓会沖縄支部長をはじめ、硬式野球部を中心としたOBが出席。阿部学長が持参した紹介資料を基に同学科の入試応募状況などを説明し、「一人でも多くの新入生確保にぜひご協力を」と要請したのに対し、支部側からは教職関係に就くOBを中心に掘り起こしたいとの回答をいただきました。

懇親会はこの後、泡盛を飲みながら、50周年を迎えた本学の歴史やそれぞれの在学時のエピソード、さらに今季の熊原投手に期待する話などで大いに盛り上がりしました。

【報告：教授 高橋義夫】

ハワイ大学ATビギナー研修（通算24回目）に10名の学生が参加

2月12日から20日にかけてハワイ大学アスレティックトレーニング研修ビギナーコースが実施されました。今回の研修にはアスレティックトレーナー部に所属する学生を中心にNATA-ATCの資格取得に興味のある計10名及び針生弘教授（引率責任者）、山口貴久准教授らの教職員が参加しました。

研修では、ハワイ大学のアスレティックトレーニング関連の授業に参加し、ビーチバレーやバスケットボールチームでのアスレティックトレーナーの仕事を見学させていただきました。学生は英語出て進められる授業の内容をなかなか理解できずもどかしい様子でしたが、マッサージの実技などで現地の学生と一緒に体を動かしながら学ぶ機会を得られました。ハワイ大学のクリニカルコーディネーターをされている大庭有希也氏からは”Athletic Trainer in USA”と題した講義で、ご自身のメジャーリーグやマイナーリーグの野球チームでのアスレティックトレーナーとして働いた経験をお話いただきました。また、大学以外でも、本研修のコーディネーターをされている金岡友樹氏が務めるマッキンリー高校でアスレティックトレーナールームや新しくできた陸上競技場の見学、スパインボードの使い方を学ぶワークショップも行われました。それぞれの場所でアスレティックトレーナーのリアルな姿を目の当たりにし学生にとって大きな刺激となりました。

参加した学生は海外の経験が少なく、英語を実際に使うことも大きな学びとなりました。出国前は英語でコミュニケーションをとれるか不安な様子でしたが、研修プログラムの一環で行われる英会話の授業や、ハワイ大学の学生との交流に加え、自由時間を使って街に出て買い物をする、道を尋ねるなどの日常の会話も積極的にこなし、日を追うごとに自信をつけているようでした。研修の最後には学生一人一人が英語でスピーチをする機会があり、その中で会場の笑いを誘うなど積極的に英語を使う姿が見られた。大学でアスレティックトレーニングを学ぶためにより高度な英語力の必要性を実感すると同時に、現在持っている英語力でコミュニケーションをとることができた経験の両方を今後の活動につなげていてもらいたいと思います。

本学とハワイ大学はアスレティックトレーニングの研修を通じた交流を14年間続けてきており、アドバンスコースと併せて今回が24回の開催でした。バスケットボールの試合を観戦した際には地元テレビ局によってSNSやテレビ中継で仙台大学の学生が紹介されるなど温かく迎えていただきました。昨年は初めてハワイ大学の学生を仙台大学に招くなど年々新たな試みがなされています。仙台大学とハワイ大学の関係を今後もさらに発展させていきたいと考えています。

【報告：新助手 小野 雅洋】



ハワイ大学の学生と一緒にマッサージの方法を学ぶ学生



45 likes

ocsportstv [?] [?] [?] to Sendai University who hung out with the Corner Crew - join Scott, Nani, and Coach now as they preview tonight's Wahine matchup against UC Davis #GameOn

地元テレビ局のSNSで仙台大学が紹介されました

卒業式が3月18日に挙行されます

平成28年度仙台大学卒業式が3月18日（土）10：00から、本学第五体育館を会場に挙行されます。本日現在で学部学生476名、大学院生14名がそれぞれの課程を修め、社会人として巣立つこととなります。また、卒業式後には学生表彰式も行われる予定になっており、理事長特別賞として女子サッカー部の須永愛海選手が表彰されるほか、学長賞、スポーツ功労賞などの表彰が行われます。

なお、卒業式のご案内はホームページにも掲載しています。

「中高大連携会議」を開催

2月25日(土)、ホテル白萩にて、中学校関係者26名(仙台大学出身者20名、仙台大学出身中学校校長3名など)、佐々木稲生校長をはじめとする明成高校教職員24名(うち仙台大学出身10名)、阿部芳吉学長をはじめとする仙台大学教職員12名の出席で、「中高大連携会議」が盛大に行われました。

最初に、阿部芳吉学長の挨拶、続いて明成高校佐々木稲生校長の挨拶で会議が始まりました。第一部は17時から19時まで行われました。前半の全体会では、久能和夫学科長が「子ども運動教育学科について」の説明を行いました。その後、明成高校の山内学科長から「アクティブラーニングの視点を生かした学習・指導について」、伊藤進路指導部長から「キャリア教育の観点からの高大連携の取組みについて」、大石募集業務部長と和山教務部長から「平成29年度入試の状況について」の話題提供がありました。その後、各分科会で、中学校校長先生を進行役として、「中高大連携」のあり方について意見交換が熱心に行われました。

第二部は19時から20時30分まで懇談会が行われました。仙台大学出身の先生方と大学の先生方の懇談が随所に見られました。

中高大連携については、今後も互いの情報交換をしながら、協力をしていくという方向になりました。

【報告：明成高校 教頭 海和 由美子】



阿部学長の挨拶



第一分科会の様子

「平成29年度陸上競技部入部予定者研修会」を開催

2月18日(土)に学内において「平成29年度陸上競技部入部予定者研修会」が行われ、男女約40名が参加しました。入部予定者は、9時に集合してコーチや主将からの挨拶を聞いた後に、陸上競技部員全員と一緒に集合し、その後各ブロックの練習に参加しました。最初は遠慮する様子が見られましたが、徐々に打ち解け、昼食時には新入生同士や在学生ともコミュニケーションが取れていたようでした。

午後は陸上競技部の活動についての講義を実施しました。中身としては、平成28年度の成績や競技会の日程、地域貢献について、陸上競技部の組織について、部活動にかかる費用の説明などです。講義の後には入部後の試合で着用するユニフォームやジャージの採寸を行いました。参加者は、自分が入部する部活動についての情報を聞くとともに、着用することになるウェアを見てモチベーションを高めていたようでした。

これらの研修会が、新しい環境に適應するための一助となれば幸いです。



憧れの仙台大陸上トラックで説明を聞く入部予定の皆さん

【報告：陸上競技部 コーチ 助教 柴山 一仁】